

「竹島の日」を考え直す会機関紙

本部;代表 趙吉夫 (大阪府八尾市志紀町 3-30 八尾市韓国人会館内 Tel.072-949-1521, FAX072-949-4337)。

編集;理事長 久保井規夫(大阪府高槻市川添 1-3-20 Tel.Fax;072-695-3210 Email; aphckuboi@ybb.ne.jp)

3/3 第十五回「竹島の日」を考え直す集いを開催

2018年3月3日(土)、第15回「竹島の日」を考え直す集いを八尾市韓国人会館にて開催した。専務理事朴清の司会で、約120人の参加者を前に、本会代表趙吉夫、協賛の慶尚北道独島財団代表理事の李相模さんによる開会あいさつを経て、次の講演、パネルディスカッションがなされた。

講演 (日露海戦の図版史料の映写)

「竹島の日」はなぜ考え直さねばならないのか

……竹島=独島は、バルチック艦隊を迎撃する戦略要地であった

日露海戦とリアンクールロック(独島=竹島)の強奪

久保井規夫 (理事長、元桃山学院大学教員、歴史学名誉博士)

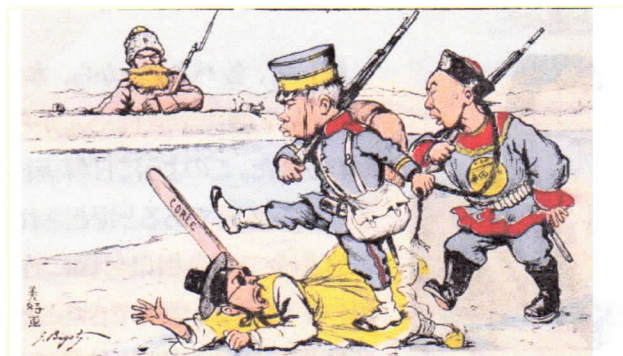
この講演は、5/2(水)に韓国浦項で開催される韓日国際学術会議での主報告として予定されていた為、次の講演内容のうち、前半の部分(I~IV)の概略を紹介しておく。後半部分(V~VIII)の概略は、国際学術会議のところで記述する。講演は、百余の図版をプロジェクターで映写しながらであったが、紙数の関係で図版はほとんどを掲載できない。(図録を希望される方は、送料含めて82円切手10枚を添えて、申し込んでください)。I.国際法的に、独島=竹島は、朝鮮(韓国)領と認められていた / II.日清・日露戦争は、韓国支配をめぐる争いであった / III. 独島=竹島は、ウラジオストック露港の戦略要地である / IV. 韓国を圧迫して日露戦争を展開した / V. 命運の制海権、旅順の露国太平洋艦隊の殲滅を / VI. 来襲するバルチック露艦隊に対する迎撃の備え / VII. 有無を言わさぬリアンクールロック(独島=竹島)の強奪 / VIII. 日本海海戦の勝利と韓国「併合」。

I. 国際法的に、独島=竹島は、朝鮮(韓国)領と認められていた……明らかに日本による強奪である

- 1.江戸幕府は、元禄竹島一件にて朝鮮領として渡海禁止とした。朝鮮にも通告した。元禄9(1696)年1月28日
- 2.江戸幕府は、天保竹島一件では、異国渡海として厳罰とした。全国へ高札で徹底した。天保8(1837)年12月
- 3.追認して、明治政府も、独島=竹島を朝鮮領と決定した「太政官指令」を出した。明治10(1877)年3月29日
4. 権威ある日本地図に、独島=竹島は朝鮮領として扱われている。江戸期の長久保赤水「改正日本輿地路程全図」官許正規版(1779年、1791年、1811年、1833年、1840年)。幕府天文方の高橋景保新訂・山路諧孝改訂「重訂万国全図」1855年。明治政府の公地図でも、朝鮮領とした。先ず、陸軍参謀局「大日本全図」1877年、「亜細亜東部輿地図」1879年。日本領土の公地図である内務省地理局地誌課「大日本国全図」1881年2月。海軍水路部長肝付兼行「日本総部、朝鮮其付近図」1891年、「朝鮮全岸図」1896年。農商務省地質調査所「日本全図」1897年、「大日本帝国地質略図」1903年。(貴重な史料だが、講演時間の都合で、提示できないのが残念である。) 日本が独島を韓国から強奪し、竹島と改称した1905年(2/22「竹島の日」)以前には、日本領有を示す公(政府関係)史料は一点もない。

II. 日清・日露戦争は、韓国支配をめぐる争いであった

- 1.朝鮮支配をめぐる日清戦争とロシアの介入
- 2.三国(露仏独)干渉と対露の軍備拡張;臥薪嘗胆
- 3.日露戦争風刺画 ロシアのアジア進出を阻むために、日英同盟で、英国の代理戦争をする日本。
- 4.日露戦争風刺画 日本にとっては、韓国・中国へ侵攻するための戦争であった



日本にとっては、韓国・中国へ侵攻するための戦争であった



独島財団代表理事李相模さんの連帯挨拶

Ⅲ. 独島=竹島は、ウラジオストック露港の戦略要地である

1.旅順には海洋島、ウラジオストックには鬱陵島・独島 / 2.旅順港出撃の清国艦隊を日本海軍が迎撃 / 3.旅順港のロシア太平洋艦隊 / 4.ロシアは、ウラジオストック露港防備に、韓国東岸を重視 / ①ロシアによる、国際名リアンクールロック(独島=竹島)の調査 1857年 / ②広大なウラジオストック港。ロシア東洋艦隊の根拠地であった。



日本連合艦隊は、本拠地を佐世保から韓国鎮海湾へ移した。H.W.WILSON「JAPAN,S FIGHT for FREEDOM VOL.1」LONDON 1904.10.13

Ⅳ.韓国を圧迫して日露戦争を展開した

1. 仁川奇襲とソウル占拠への進軍 / 2.「日韓議定書」で、韓国に日本軍への協力をさせる / 3.鎮海湾を日本連合艦隊の本拠地とする / 4.韓国人を使役し、鉄道・陣地を築いた / 5.蔚山沖海戦で、釜山への制海権を掌握した (続く)

パネルディスカッション 「本会五周年を迎え、今までとこれから」



パネラー。左から、宋彙榮、稲垣豊、漆崎英之、黒田伊彦、北村めぐみ、久保井規夫

まず、黒田 伊彦 (副代表、元大阪樟蔭女子大学教員)から、「本会五周年を迎え、今までとこれから」と題して、本会の活動経過が報告された。この活動経過は、すでに本会ニュースNO.14に収録した。本年度は、さつそく五月に、韓国において、浦項で日韓国際

学術研究集会を開催すること、鬱陵島で五周年の記念植樹を行う予定である。また、10/28の第14回集会でも報告した内容、即ち韓国の中学三年生(全羅南道ハムピョン中学校)から、島根県中学校各校の教師に対して「竹島教育への批判の手紙」が送付されたことに簡単にふれて、今後、領土教育への取り組みを重視して行きたいと述べた。



宋彙榮
(嶺南大学歴史学教授)

続いて、各パネラーから、本会と関わって自分たちの期待や活動が述べられた。宋彙榮(嶺南大学歴史学教授)さんからは、日本の学習指導要領の改悪と教科書の領土教育批判がなされた。このように日韓両国が、お互いの国の領土に対する認識や研究をもっと交流する場が必要であると提起された。漆崎英之(金沢;日本キリスト教改革派牧師)さんは、太政官指令での島根県付図に竹島=独島が図示された資料の発見と、研究者だけでなく韓国の子供達でも理解できたことが話された。北村めぐみ(広島;手話通訳者)さんは、広島の子供達でも理解できたことが話された。北村めぐみ(広島;手話通訳者)さんは、広島の子供達の非核平和運動や竹島=独島について、創作した絵・グッズなど分かりやすいものを通して、

関心を広げている活動が紹介された。稲垣豊(東京;考え直す集い実行委員会)さんからは、東京でも毎年一回の竹島=独島学習会を開催できるよう努力している。最近、地理学者長久保赤水の資料展や、政府の領土・主権資料館(日比谷公園市政会館内)を訪れ、自分自身の認識を深める機会の大切さを自覚した。政府関係のパンフレット資料が無料で流布されて、その影響の大きさにも気づいた。ぜひ、今後も東京での学習会の開催に努力したいと語った。

5/2~5/5 訪韓;日韓学術会議と現地フィールドワークの実施

<5/2 日韓学術会議を開催(浦項工科大学 POSCO 国際会館)>

本会創立(2013.4.22)五周年・慶尚北道独島財団との姉妹結縁三周年を期して、韓国へ出向いての、日韓学術会議と現地フィールドワークを実施した。連休の行事で、旅費などは当然自己負担であったが、30名もの希望参加者を得られた。

5/2(水)12:45 釜山金海空港に到着し、入国手続きを終えて、用意してくれたバスにて、浦項へ向かった。16:00には、会場の浦項工科大学 POSCO 国際会館に到着した。16:30、歓迎挨拶が、慶尚北道知事(金寛容)、浦項市長からあった。主催者から、独島財団代表理事の李相模さん、本会代表の趙吉夫から

の開会挨拶がなされた。朴清(専務理事)から、韓国に対する本会の紹介をおこなった。黒田伊彦(副代表)からは、本会の活動経過が報告された。17:00、特別講演:久保規夫(竹島の日を考え直す会理事長、歴史学名誉博士)「日露海戦とリアンケールロック(独島=竹島)の強奪」がなされた。

<講演「日露海戦とリアンケールロック(独島=竹島)の強奪」> (前回より続く)

久保規夫 (理事長、元桃山学院大学教員、歴史学名誉博士)

V. 命運の制海権、旅順の露国太平洋艦隊の殲滅を

- 1. 旅順の露国太平洋艦隊の威容 / 2. 旅順港露艦隊への夜間奇襲 / 3. 黄海海戦でも決着せず / 4. 旅順口閉塞作戦の失敗 / 5. 難攻不落の旅順要塞攻略に犠牲続出 ①南山攻略の死闘 ②鷄冠山の戦闘 / 6. バルチック露艦隊派遣に、犠牲いとわぬ突撃 ①二〇三高地占領の死闘 ②旅順陥落にて、総軍、満州の露軍と対峙

VI. 来襲するバルチック露艦隊に対する迎撃の備え

- 1. バルチック露艦隊の来航に遅れ / 2. 急げ!監視

所、海底電線の設営を 海軍が、監視所・海底電線の設営を通信省に要請し、着手したのは開戦前(1904.1.4)であった。 / 3. リアンケールロック(独島=竹島)、鬱陵島は、ウラジオストック港に対する戦略要地である



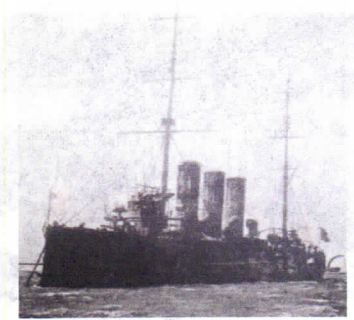
はるか浦項鉄鋼コンビナートを見る(宿舎より)



旅順要塞(護衛兵力約五万人)に守られた露国太平洋艦隊は、決戦への戦力を保持していた。H.W.WILSON「JAPAN,S FIGHT for FREEDOM VOL.1」LONDON 1904.10.13



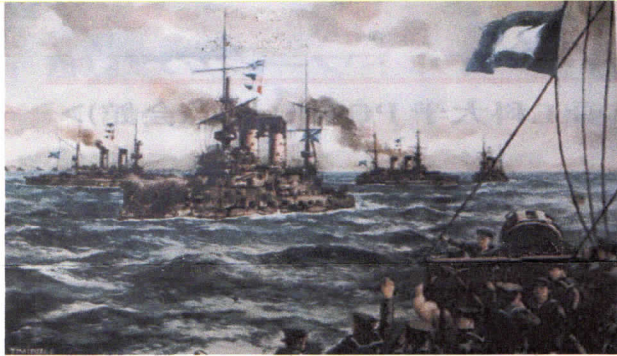
巡洋艦新高航海日誌。「リアンコールド岩、韓人之を独島と書し、本邦漁夫等略してリャンコ島と呼称せり。露艦停泊せり」1904.9.24



巡洋艦対馬、上陸して報告する。「監視所に適するは、二か所あり。海驢漁のための、日本漁夫の仮小屋がある」。1904.11.20

VII. 有無を言わさぬリャンクールロック(独島=竹島)の強奪

ウラジオストック港に対する戦略要地として、監視所が、鬱陵島に三ヶ所、リャンクールロック(独島=竹島)に設営されることとなっていた。この日露戦時の秘密作戦遂行中に、韓国領のリャンクールロック(独島=竹島)に対して、中井養三郎からの「私だけに漁撈の許可」との申請は好都合であった。無人島を幸いに、強引に日本領とした。日本の保護国とさ



1905.5. 28、リャンコルド列岩付近において、XGE 旗を掲げ、残存露艦隊ニコライ一世他四隻降服する。
(小笠原長生指導「壮烈絵巻日本海第海戦」講談社 1937.6.1)

れた韓国側からの異議申し立てはできなかった。

VIII. 日本海海戦の勝利と韓国「併合」の野望

1. 天気晴朗なれど波高し、皇国の興廃この一戦にあり／
2. リャンコルド列岩付近において、敵艦隊を降伏させたり／
3. 韓国「併合」は決定的となった

日本は、韓国を占拠した日露戦時に、韓国侵略の布石をした。日本軍への全面協力の「日韓議定書」(1904.2.23)。

外交を日本の了承とする第一次「日韓協約」(1904.8.22)。
外交権を奪って韓国を保護国とする第二次「日韓協約」

(1905.11.17)。次は、内政も干渉する第三次「日韓協約」(1907.7.24)、最後に韓国「併合」となる(1910.8.22)。

<5/3~4 悪天候で変更した、現地フィールドワーク>

予定では、私たち訪韓した三十名は、5/3~4 に、浦項から鬱陵島へ渡り、現地フィールドワークを行うことになっていた。まず、本会発足五周年・独島財団姉妹結縁三周年の記念植樹を、安龍福記念館前にて行う。この記念館は、漁労をしていた安龍福らが、鳥取藩米子の商人に拉致された場所である。記念植樹の石碑には、竹島問題を解決して日韓友好を進めたいことを記してある。すでに独島財団の協力で用意されて、記念行事をするだけであった。そのあと、独島博物館訪問・学習交流、鬱陵島の日露戦争戦跡の探索などを予定していた。残念にも、強風警報が発令され、鬱陵島への渡海はできなくなった。後日、記念植樹は行う。このハ

プニングに、独島財団は、急遽、韓国東海岸の関係史跡・施設をめぐるバスツアーを企画してくれた。特に、印象



九龍浦日本家屋通り



東海岸・鬱陵島を管轄した観察使・掃討使の待風軒跡。

が深かった所を掲載する。

1. 九龍浦日本家屋通り

東海の水産業の拠点として、九龍浦へ移住してきた日本人移民がつくった集落跡である。日本家屋街跡と氏神の神社跡が、文化遺産として残されていた。

2. 観察使・掃討使の待風軒

東海岸の治安と防災を司った役所跡である。鬱陵島への調査・観察も行った。観察使による、鬱陵島から独島=竹島を目視した公文書がある。

2. 竹辺灯台、日露戦争戦跡

1905年、日露戦争時、ウラジオストック露港へ向かうバルチック露艦隊を迎撃するため、日本連合艦隊は、韓国南部・東沿岸に、臨時の監視所・海底電線を各所に設営した。

特に、浦項港・竹辺港・鬱陵島・独島=竹島は、ウラジオストック露港への水路で戦略要地とされた。特に、竹辺港には、有線の海底電線とともに無線機も設営され、艦船への直接連絡も可能とされた。日露戦後も、重要な航路の監視所・海底電線は、灯台として再構築された。

4. 新羅の異斯夫將軍、鬱陵島へ向かう



獅子像

新羅の王族異斯夫將軍が、宇山国(鬱陵島)を征服するために、戦船に多数の木造の獅子を飾り、脅し降服させたという伝説がある。「三国史記」(1145)の「異斯夫条」である。これを祈念して、異斯夫獅子公園・記念館があった。鬱陵島領有はわかるが、独島=竹島まで領有したとは無理な論説だが、数多の獅子像が面白かった。



異斯夫獅子公園全景

5. 海洋科学技術院東海研究所

筆者は、独島=竹島上陸、鬱陵島の独島博物館、ソウルの独島体験館をすべて体験している。しかし、この研究所は、自然科学から独島=竹島の現実をありのままに追求している。独島=竹島のレプリカも正確であり、独島3D映像体験も面白い。領有権云々を超越して、独島=竹島の自然保護を正確に伝えている。



独島=竹島の縮小レプリカ。海底の様子まで再現されている。



海洋科学技術院東海研究所



独島=竹島で獲れた魚の剥製

お願い!! 何度も督促していますが、未納の方は、同封した郵便局振込用紙にて、本年度会費(2,000 円)を納入してください。これが最後の督促です。未納の場合、「独島=竹島ニュース」など本会からの連絡・案内や、集会参加費無料の特典は取りやめます。

領土問題の原本史料(幕末・維新)が初めて一堂に並ぶ !!

6/30(土)13時半~。連合会館(東京都地下鉄千代田線;新御茶ノ水駅 B3 出口前)

史料の展示・解説:領土問題は、明治に生じる。「固有の領土」論の破綻

……長久保赤水、林子平、松浦武四郎、間宮林蔵たちと領土問題

〈竹島=独島〉〈琉球、尖閣=釣魚諸島〉〈蝦夷=北海道、北方領土〉
久保井規夫(歴史学名誉博士、アジア民衆歴史センター主宰、「竹島の日」を考え直す会理事長)

江戸時代後期、欧米列強諸国がアジア諸国へ植民地拡大、国交・交易の実行を迫る策動は、それまでの鎖国の秩序を破った。北方からはロシアが国境の確定を迫ってきた。国際的視野をもち、日本の領土・沿海について先駆的地理学者である長久保赤水、林子平、松浦武四郎、間宮林蔵たちの原本史料は明晰にする。すなわち、幕末の日本領土の確定は、外交によって平和裏に行われた。しかし、今日の領土問題(竹島、尖閣諸島、北方領土)は、明治以降の軍国主義による領土拡大によって生じた。政府の「固有の領土」論による領有主張は、歴史の真実の前に、初めから破綻している。境界となる韓国・中国・ロシアとの、正しい歴史認識を踏まえた学術交流と、外交が友好的な唯一の解決策である。

◆日時 2018年6月30日(土)13時半~17時。①講演の次に、②展示・解説(14:30~16:00)。

◆集会名「明治150年と領土問題……真実の歴史を見つめなおす」

◆会場 連合会館201号室(☎ 03-3253-1771 東京都地下鉄千代田線;新御茶ノ水駅 B3 出口前)。

◆主催 集会実行委員会(新時代社気付 03-3372-9401)。「竹島の日」を考え直す会(八尾市韓国人会館内 072-949-1521)

◆展示史料提供 アジア民衆歴史センター(問い合わせ 072-695-3210)事前許可なく展示史料の撮影禁止。

〈展示史料の概略〉史料を目の前に、あなたが歴史の真実を実感してください!!

◎長久保赤水(1717~1801)関係 日本地理学の先達として、生誕300年記念切手刊行。水戸藩主の侍講。「大日本史地理志」を編纂。初めて経緯度線を用いた「改正日本輿地路程全図」を著し(1779)、日本地図の模範とされた。官許を受け、幕藩の支配地(領土)を提示し、鬱陵島と独島=竹島を朝鮮領として明示した最初の地図である。官許正規版全五版すべて(1779.1791.1811.1833.1840)、元版(1775)、海賊版(1846、外務省ホームページ)を展示する。奥州を探索した「東



長久保赤水「改正日本輿地路程全図」茨城県高萩駅前

奥紀行」(1792)、長崎に遊学し世界に目を向け「地球は丸きもの」として制作した「地球万国山海輿地全図」(1785、1850、明治天皇天覧の榮譽を得るも展示する。

◎林子平(1738~1793)関係 仙台藩の地理学者。江戸・長崎に遊学し、西欧の海外事情を学ぶ。日本周辺の状況への世論の喚起を図るため、「三国通覧図説・五付図」(1785)「海国兵談」「蕃舶図絵」(1786)を著した。これらの著作をすべて展示する。「三国通覧図説」は、朝鮮国、蝦夷地、琉球王国を通覧し、「付図」に、蝦夷地、小笠原諸島、鬱陵島と独島=竹島、琉球・尖閣諸島を提示した。光格天皇の天覧の榮譽を受けた。「海国兵談」は、国防の不備を主張したため、幕府から、「政治を私議し、人心を感わした」として、著作の版木・製本を廃棄され、仙台蟄居を命じられ、不遇の死を終えた(1792)。死後、免罪・名誉挽回される(1841)。蟄居中、著作を求めた弟子への「直筆の書状」(1792)も展示する。

◎松浦武四郎(1818~1888、幕末・維新)関係 伊勢国一志郡の郷土。若年より各地をめぐる地誌を調べた。天保竹島一件(1837)を知り、「竹島雑誌」を著した(1854.1864.1874)。同書に「日本輿地路程全図」、「八右衛門の竹島絵図」を引用した。1845年より蝦夷地を巡り、樺太・国後島・択捉島を探検した(1849)。幕府の蝦夷地



林子平「三国通覧図説・五付図」1785の「全図」北方領土、竹嶋、尖閣の領土問題を図示する。

御用掛(1855)となって、さらに詳しく踏査し、「東西蝦夷三川地理取調紀行」「蝦夷漫画」(1859)「北蝦夷余誌」(1860)「十勝日誌」(1862)「唐太日記上下」(1860)「西蝦夷日誌」(1865)をまとめた。アイヌの人々の生活・実情を調査し、アイヌへの場所請負人の非道を糺そうと上訴した。

明治政府の開拓使判官となり、北加伊道(北海道)の名付け親となった。「加伊」とは、アイヌ語で「この地に生まれたアイヌの人々」を意味した。そして、アイヌ語の地名を記載した「北海道国郡図」開拓使蔵版(1869)を刊行した。北海道、樺太、千島列島全域が記載されている。これが、内務省地理局の北海道公地図の原図とされた。以上の著作(原本、一部復刻)を展示する。また、北野天満宮など、崇拝した各地の八幡宮へ、北方を描いた「北辺地図大鏡」(1875~1884。拓本を展示)を奉納した。



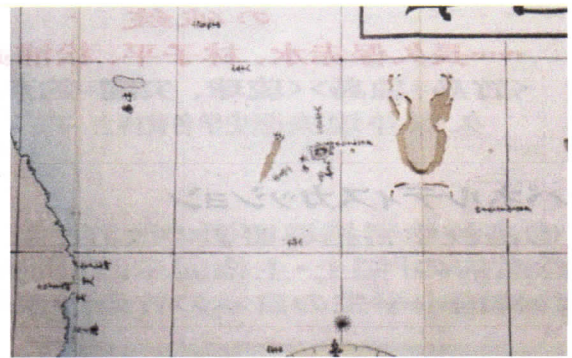
「北蝦夷余誌」(1860)。松浦武四郎は、アイヌの助けで蝦夷地を探検した。

◎**間宮林蔵**(1775~1844)関係 常陸国筑波郡の農民から士分となる。1799年、蝦夷地を探検し、1800年、蝦夷地御用雇となる。函館で、伊能忠敬に師事し、蝦夷地の探検・測量に従事する。1808~09年、松田伝十郎とともに樺太探検に渡航し、海峡(間宮海峡 1808)発見により、樺太が島であること実証した。かくて1817年、蝦夷地北方部分の測量を提供して、師事された伊能忠敬「大日本沿海輿地全図」の完成に寄与した。

なお、シーボルト事件(1822、伊能忠敬地図の国外持ち出し)や、浜田藩;天保竹島一件(1836、渡海禁止の竹島への密航)を幕府へ告発したとされる。今回、展示するのは、**間宮林蔵口述「北蝦夷図説四巻」**(1790.4 原本)。**幕府開成所(伊能忠敬・間宮林蔵原図)「官版実測日本地図;蝦夷諸島」**(1867を復刻)である。

<その他、関係の史料展示>

<竹島=独島> 「海左全図」(19世紀後半の朝鮮図。当時、居住不許可の鬱陵島南東に宇山島が記される)。「浜田藩;天保竹島一件、大目付より竹嶋渡海禁止の高札」1837.12。整軒玄魚「赤水原図、官許 大日本海陸全図」1846。工藤東平「大日本沿海要彊輿地全図」1854。高橋景保・山路諧孝「新訂・重訂萬国全図」(1807、1810、1871、1855)。勝海舟(江戸幕府海軍奉行)「大日本沿海略図」1867。日本最初にリアンクールロックを記載した。太政官指令;竹島外一島之儀、本邦関係無之儀ト可相心得事「島根県;日本海内竹島外一島地籍編纂方向;村図磯竹島略図」1876.10.16。海軍水路部長肝付兼行「海図;朝鮮全岸図」1896.4.15(明治政府の公地図に、初めてリアンコールド岩と竹島=独島を記載)。



勝海舟(江戸幕府海軍奉行)「大日本沿海略図」1867。日本最初にリアンクールロック(竹島=独島)を記載した。

<琉球。尖閣=釣魚諸島> 「徐保光;中山伝信録」(1721、琉球への中国冊封使の往還路図)。

歌川重久画「琉球人行列図」1850.11。琉球へ米国ペリー東洋艦隊来航「米国・琉球国修好条約」締結の図、1854。錦絵「(日清戦争)講和談判彼我全権会見図」(中国の遼東半島、台湾の割譲。1895.5.5)。



琉球へ米国ペリー東洋艦隊来航。「米
国琉球国修好条約」締結の図、1854。

<蝦夷地。北方領土> 高橋壮四郎調査・加藤肩吾図

「写;松前地図」(1791頃、蝦夷地に場所請負制による番屋、運上屋など記入)。「魯西亜一件三冊」(19世紀初め。国後島騒乱1789。



「錦絵日本晴、露領雪解け 歌川豊斎筆」(近藤重蔵、択捉に国標を建つ。1798.7.28)。

ロシア使節ラックスマン、漂流の幸大夫を連れて、根室へ来航1792。ロシア使節レザノフ、長崎へ来航1804)「錦絵「日本晴、露領雪解け 歌川豊斎筆」(近藤重蔵、択捉に国標を建つ。1798)。藤田良「蝦夷蓋境輿地全図」1853。「アイヌ絵画展覧会ポスター」1939。

明治150年と領土問題

…… 真実の歴史を見つめ直す

◎日時 2018年6月30日(土) 13時半~17時(開場 13:15)

◎場所 **連合会館** 201号室(03-3253-1771)
東京都地下鉄千代田線;新御茶ノ水駅 B3 出口前

◎主催 明治150年と竹島・独島を考える集会実行委員会。
「竹島の日」を考え直す会。

<内 容> 参加費 500円(主催団体会員は無料)

◆挨拶 国富建治(明治150年と竹島・独島を考える集会実行委員会)

趙 吉夫(「竹島の日」を考え直す会代表)

李 相模(韓国慶尚北道独島財団代表理事)

◆講演 **明治150年の侵略思想と竹島・独島問題**

黒田 伊彦(「竹島の日」を考え直す会副代表、元大阪樟蔭女子大学教員)

◆史料展示・解説 **領土問題は明治に生じる:「固有の領土」論の破綻**

(アジア民衆歴史センターによる史料提供)

……長久保赤水、林子平、松浦武四郎、間宮林蔵たちと領土問題
<竹島=独島><琉球、尖閣=釣魚諸島><蝦夷=北海道、北方領土>

久保井規夫(歴史学名誉博士、アジア民衆歴史センター主宰、「竹島の日」考え直す会理事長)

◆パネルディスカッション

◎高校学習指導要領の改訂と領土問題

増田 都子

◎政府の「領土・主権展示館」批判

国富 建治

◎韓国中学生の日本の竹島学習批判の手紙について

黒田 伊彦



毎日グラフ「波高い尖閣列島をゆく」1970.10.25。「忘れられた島」が、海底油田で領土問題化した。

編集後記 五月の訪韓では、荒天候のために鬱陵島へ向かうことができませんでしたが、七月初めに、一部の役員だけで鬱陵島での記念植樹を実施する予定です。また、6/30 東京集会では、領土問題に関する幕末・明治維新の貴重な史料が初めて一堂にそろって展示・解説されます。史料の管理のため、展示・解説は、限られた時間で、撮影禁止です。そのため、当日会場にて参加者対象に、図録(実費 800円)を数十部だけ用意します。